

韓国

現代韓国

RightMedia

www.bami.kr

著者_ チョウ・ミドウム

翻訳_ 李孝淑, 元民恵

監修_ 高秉煜

およびカルト
宗教

Right Media

www.bami.kr

韓国の

主要異端

およびカルト

宗教

はじめに

.....

韓国の異端とカルト宗教の 海外進出が活発となっている。

韓国で最も大きい教勢を自慢し、多くの被害事例を生み出している「新天地」はアジア16カ国、ヨーロッパ9カ国、オセアニア2カ国、アフリカ5カ国、北アメリカ2カ国、南アメリカ6カ国など計40カ国に進出している。

「喜びのニュース宣教会」^{朴玉洙(パク・オクス)、救援派}は、アジアを超え、アメリカ、オセアニア、アフリカへ進出し、全世界中202個の教会を建てた。「命の御言葉宣教会」^{李ヨハン(イ・ヨハン)、救援派}は、81カ国に進出し、338箇所のセンターを設立した。

「統一教」は公式的に195カ国に宣教師を派遣し、性犯罪者が教祖であるJMSに魅了される外国人が存在する。

韓国から海外へ派遣される宣教師は文化や言語より、韓国の異端、カルト宗教の問題で困難な状況である。現地の人に提供する情報が極めて限定的であることも対策への妨げの一つである。

神学・異端とカルト宗教の専門マスコミである「バルンメディア」^{bami.kr、チョウ・ミドウム 発行人}は、「新天地」、「神様の教会世界福音宣教協会」、「救援派」、「統一教」、「JMS」など、総5つの団体について簡単な情報を提供することを始め、海外に配布できる多様なコンテンツを製作して行こうとしている。

尚、韓国の異端とカルト宗教により生じた被害事例などを海外の各国の公的機関に知らせ、該当団体の正体を知らないまま、彼らと関係を結ぶ民間団体などへ伝え、海外の被害者が発生しないように予防する対策を行う予定である。

翻訳は、この働きの重要性を感じた方々のご協力によって行われた。李多悦様^{英語}、金美英様、姚雅馨様^中
国語、高秉煜様、元民恵様、李孝淑様^{日本語}のご苦勞と献身に心より深く感謝申し上げます。

2019年 6月 1日

バルンメディア

発行人 チョウ・ミドウム

新天地



「新天地」は、韓国で最大の教勢を持っているカルト宗教である。教祖の「イ・マンヒ」は、1931年韓国の慶尙北道・清道郡 キョンスンブクト・チョンドグン で生まれた。正統教会に出席していた彼は当時、韓国社会で有名であったカルト宗教を転々としていたが、1980年代からは「新天地」を創設することになった。2019年現在、信徒数は約20万人であり、一年に平均1万人が「新天地」の信徒になる。

何を信じるのか。

「新天地」の教理は聖書的、神学的に正統とは完全に離れている。韓国の主な教団は「新天地」を「神学的に批判する価値のない集団」と表現している。

「新天地」は教祖の“イ・マンヒ”を死ぬことのない永遠に生きる救い主として信じている。「新天地」は初臨のとき神様の新しい名としてイエス・キリストが来られ、後に、イエスの新しい名を持って来られた者がいわゆる勝利した者である“イ・マンヒ”であると信じている。比喻で書かれた聖書について精通したところは「新天地」のみであるといい、“ヨハネの黙示録”の象徴や比喻を新天地の歴史に適用して解釈する。例えば、ヨハネの黙示録の00章00節は、新天地で0000年度にあった出来事であると説明する。これを“実像教理”という。新天地は使徒ヨハネが幻想の中でヨハネの黙示録を‘記録’し、“イ・マンヒ”はその天国の実像を見て、黙示録を‘証し’‘するものと主張している。“イ・マンヒ”は、6、000年間隠れていた秘密を解き明かす存在である。近年、新天地は全世界の宗教を統合し新天地に名づけるという、恥ずかしい主張をためらわない。

布教方法

「新天地」のでたらめな教理にもかかわらず、教勢は約20万人に達し、毎年約1万人が新天地に魅了される。教勢を拡張させた“最功労者”は、新天地が行っている偽装布教方法である。“新天地のような者を気をつけなければならない”という嘘まで用いて布教をすることで、多くの人が騙されている。最近、新天地が自分たちの名称をそのまま使ういわゆる、“公開布教”をしているが、継続する偽装布教で疲れた信徒を取り締まるための内部対策にすぎない。新天地に対する反社会的な共感が形成された今、公開布教は効果を得にくいのである。

新天地の偽装布教は外部布教と教会の内部布教に分けられる。全部自分自身を信頼できる人に認識するように関係作りに焦点を与える。新天地は布教のために嘘を正当化するため、布教の際、あらゆる嘘が横行する。宣教団体の幹事、キリスト教関連機関のスタッフ、伝道師、宣教師、牧師に詐称、教団のマークを盗用した偽装教会、偽装文化センター、趣味を共有するコミュニティサイト、各種の偽装アンケート調査による個人情報把握、求人サイト、パーソナリティ形成講義、メンタリング授業など、人と人が出会えるすべての方法を用いる。そのため、“このような方法で接近してきたら、新天地ですか。”という質問は意味がない。

新天地は様々な方法で布教対象に接近するため、接近してくることを避けることは難しい。しかも本人に近づいてくるすべての接近を新天地と疑うことも難しい。それではどうすればよいのか。予防方法は簡単である。第一に、警戒心を持って確認と検証する手続きが必要である。上述のように幹事、伝道師、牧師、公信力のある機関を詐称するケースが多い。接近してくる者が所属を明らかにして名刺を渡しても該当団体または教会に問い合わせをしなければならない。アンケート調査の際に身上について記入しないことも重要である。

第二に、新天地の布教の最後は聖書勉強に繋がる。最初から“イ・マンヒ”を救い主として信じる人はいないため、自分たちの教理を注入する聖書勉強の過程が必要となる。この過程に導くため、あらゆる詐称と嘘が用いられる。新天地の聖書勉強は2～3ヶ月間1対1あるいは小グループからはじめ、その後、少なくとも20名、多くは40名ほど集まり、塾形式のセンターで6～7ヶ月の過程に参加させるようになる。新天地は聖書勉強をはじめると、サタンの妨げが始まるため、絶対両親や教会のスタッフに知らせないように注意をする。さらには“新天地のような異端にも気を付けなければならない”と言う。当事者自らの意図の有無にかかわらず、人との出会いが上述のような形の聖書勉強会へとつながったら、直ちに聖書勉強会をやめるべきだ。

被害事例

韓国で新天地による被害事例は数え切れないほど多い。特に新天地によって多くの家庭が破壊された。新天地に陥った多くの学生が学業を諦め、家出をした。“イ・マンヒ”は公開的に新天地を信じない家族とは“別れよ 離婚”と説教し、数多くの信徒が夫あるいは妻に離婚届けを渡した。退会者を拉致、集団暴行、GPS移動追跡装置などを利用した監視など、各種の犯罪行為をためらいもせず行い、法律による処罰を多く受けた。

新天地、平和団体として海外へ進出

新天地の内部資料によると、新天地は海外の40カ国へ進出し、22,478名の信徒^{2019年1月13日基準}を保有しているという。新天地の布教方法は韓国であれ海外であれ、大きな違いはない。様々な方法で関係を結ぶことに焦点を当て、結局は聖書勉強へ誘導する。

新天地はここ数年間自分たちを平和団体として偽装し活発に海外進出をしている。国内では毎年‘平和’をキーワードとした大きい行事を開催する。新天地の代表的な偽装団体はHWP L^{Heavenly Culture、World Peace、Restoration of Light}、IWPG^{International Women’s Peace Group}、IPYG^{International Peace Youth Group}である。

新天地が平和行事を開催する主とした理由は、ネガティブなイメージを刷新し、信徒を結束させると同時に財政を確保する手段となるからである。その中でも教理が一役を占める。

新天地の平和行事には多くの外国人が招待される。外国人の参加は信徒にとって重要な意味がある。新天地

は毎年1月1日、標語を提示し、一年の目標を決める。2014年を始め、'白い群れの創造'という標語をかけた。新天地はヨハネの黙示録第7章9節の“白い衣を身に着け、だれにも数えきれないほどの大群衆”を、“白い群れ”と呼ぶ。印付けられた信徒数が14万4千人と満たされれば、霊界の殉教者たちと肉界の新天地たちと神人統合すると信じている。新天地の最も核心的な教理である“神人合一”である。神人合一が実現すれば、悔い改めて帰ってくる存在が白い群れである。

新天地の首脳部は、平和行事を開催して、寄り集まってくる外国人を"白い群れ"であると信徒たちに教えた。信徒たちは彼らを見て“白い群れが押し寄せてくる”という錯覚に陥る。行事に参加する外国の要人が前総理大臣であれ現長官であれ、彼らは変改された新天地の教理を確認するための道具にすぎない。新天地の招待で韓国を訪問したオランダのある青少年団体の会長は、オランダに戻って"新天地の偽装宗教行事に利用された"という手記を残したこともあった。

一方、新天地は万国会議を通じて国際法を制定するという主張を展開する。国際法の辞書的定義は“国家間で明示されたり黙示された合意に基づいて形成された法”である。代表的な国際法には条約があるが、二国間条約と多国間条約に分かれる。二国間条約は、2カ国間の条約をいう。一般的に2カ国間の交渉を通じて制定される。多国間条約は3カ国以上の多数の国家の合意を通じて制定される。国連など国際機関の会議を通じて制定されるのが一般的だ。制限的に一部の国際機構も国際法を制定できる権限を持つ。

新天地の国際法の制定の主張について政府機関の関係者は“国際法制定の主体は基本的に国家である。(国際法の制定は)国家が介入しなければ不可能である。国家の代表として公式的に権限を認められる者、つまり、現国家元首または国内法の手続きによって権限を委任された人々が参加しなければ、国際法の制定は実現可能性のない話”と明らかにした。

神様の教会



神様の教会世界福音宣教協会(以下、神様の教会)はアン・サンフン(1985年死亡)を神、チャン・キルジャをお母さん神として信じる。第七日安息日イエス再臨教会出身のアン・サンフンは1964年神様の教会・イエス証人会を創設し、本部を釜山からソウルに移して本格的な活動を始めた。アン・サンフン死亡後、いくつかの派に分かれたがその中でも勢力が最も大きく、被害事例が多い所がチャン・キルジャをお母さん神として信じる神様の教会だ。

興味深い所はアン・サンフンはお母さん神の存在を認めていない点だ。アン・サンフンが生きていた当時、オム・スインという女性がお母さん神論を主張したがアン・サンフンはサタンの教えだと批判した。アン・サンフンの死後、現在の総会長かつ実勢のキム・チュ Chol がチャン・キルジャをお母さん神として推戴した。チャン・キルジャをお母さん神として掲げた神様の教会はアン・サンフンの教えを正統に受け継いでいない我流と言える。

何を信じているのか

神様の教会は神様が人類の救いのためにこの世に建てられた唯一の教会が自分たちであると主張する。旧約時代の主が新約時代に子として来られた方がイエス様であって聖書の予言とおりにこの時代に再臨したイエス・キリストがアン・サンフンであると信じている。

ヨハネの黙示録22章17節の花嫁をお母さん神として歪曲し、お母さん神が人類を救うと言う予言が聖書に記録されていると主張する。過越祭と安息日を守れば救われると教え、教会に十字架を掲げるのは偶像崇拜だと言う。また、1988年、1999年、2012年に終末が来ると時限的な終末論を説破し、世間を騒がせた。

終末を主張し、財産を取上げる

時限的な終末論を説破する異端の代表的な被害事例は財産の献納だ。神様の教会は終末を利用し、信徒らに恐怖感を与えると同時に逃場を提示した。逃場は「シオン」すなわち、神様の教会であると教えた。信徒らは「北より大きな災いと滅亡が始まったらシオンに逃れよ」という教育を受けてきた。脱退者らによると「北」は「北朝鮮」を意味する。北朝鮮の核問題を起点に災いが始まり、その時に神様の教会の建物に逃げると助かると教えた。

逃場建築は信徒らの財産を取り上げる良い名分になった。信徒らは「終末がやってくるので財産を地上に積むより天に希望を置きなさい」「神様より最も祝福を受けるには神様の神殿を建てる際に必要な資金を捧げること」という説教を繰り返して聞かされた。積立金と保険の解約はもちろん、自家から賃貸に家を移してまで献金する信徒らがでてきた。建築献金は神様の教会の財政のもっとも大きな部分を占めている。建築献金が十分の一献金より一万倍以上の地域もあった。

神様の教会の信徒数の把握が難しい状況の中で、持続的な建築は信徒数が増加しているのではないかという懸念を高めるものだった。しかし、神様の教会の脱退者と被害者らは信徒数がむしろ減少したという。

神様の教会の被害者・脱退者はここ数年間、根気よく神様の教会の前でデモをしてきた。自然と出席する信徒数を数えることができた。被害者らの現場調査と脱退者らの証言をまとめると、2000年の中頃以降、神様の教会の教勢は急激に減ったという結論に達する。彼らは国内の神様の教会の出席信徒数が2万名ほどであると分析している。

ある脱退者は「神様の教会が建物を買っていることで教勢が拡大しているのではないかという懸念がある。しかし、建物の買収は教勢の拡張ではなく、終末教理に基づく現象」であると「（神様の教会が）建築または建物の売買を乱発し、これを地域のニュースで取り上げ、教勢が拡張しているかのようにみせかけた。また、新しい独立建物は周辺のいくつかの賃貸物件を合わせたものだ。結果的に二つ三つの教会がなくなり、一つの教会が現れただけである」と明らかにした。

布教方法

神様の教会の代表的な布教方法は三つに区分する。一つ、好奇心をかきたてる質問でアンケートをとる。▲神様の存在に対してどのようにお考えですか？▲聖書のいう安息日は何曜日でしょうか？▲聖書はどういう本だと思いますか？▲韓国人の情緒に最も適する宗教は何であると思いますか？▲12月25日クリスマスはどこから由来したのでしょうか？▲どのような場合、最も異端であると思いますか？▲この世の終末についてどのような見解をお持ちですか？などが代表的な質問である。

二つ、スマートフォンやタブレット端末で映像を見せながら近づく場合である。お母さん神の広告映像、神様の教会が製作した広告映像などを見せながら近づく。自然災害など終末に対する恐怖心をあおる映像を見せながら接近することもある。

三つ、母の写真展を利用する布教である。神様の教会は子供を持つ母親らに多く接近する。多数の信徒が接近し、家事を手伝ったり子供の面倒をみたりするなど親密な関係を築く。幼い子供を育てながら母親への想いが募る時期の人々に母親への恋しさを呼び起こす写真展である。

ボランティア活動主義

神様の教会は余命わずかの終末論の説破による財産の取上げ、離婚など各種の社会問題が発生すると公信力を確保するために様々なボランティア活動をしてきた。国際ウィラブ運動本部、ASEZが代表的な神様の教会のボランティア団体である。神様の教会は自らの活動をマスコミを通して意図的に露出し、自ら公信力のある宗教団体として装っており注意が必要だ。

救援派



2014年4月16日、仁川から出発し済州島に向かう旅客船セウォル号が全南珍島郡の近くの海で沈没した。搭乗客476人の内、295人が死亡したが死亡者の大多数が修学旅行中の安山檀園高校の学生たちであった。残念な事故以降にマスコミでは救援派という名前が登場し始めた。過去マスコミでは「似非（サイビ）」という社会的用語は使用したが「異端」、「救援派」など宗教的な単語を使用することは控えていた。しかし、セウォル号事件直後に救援派、異端という単語が公然として使用されるようになった。ユ・ビョンウォン救援派と関連する報道は一ヵ月ほどすべてのマスコミのヘッドラインを飾った。

公式名称

救援派に接近する前に彼らの公式名称を正確に知る必要がある。救援派という名前は彼らが救いに関して間違った教理を立て通しているために正統教会ではなく異端として定めて付けた別称である。救援派は公式名称でもなく一の団体でもない。韓国の救援派の元祖と言えるのはキリスト教福音浸礼会クオン・シンチャン（死亡）、ユ・ビョンウォン（死亡）、ユ・ビョンウォンの教会での度を過ぎた事業行為に反対してキリスト教福音浸礼会を脱退し、新しく分派を形成したイ・ヨハンの命の御言葉宣教会大韓イエス教浸礼会、独自の勢力を形成したパク・オクスのグッドニュース宣教会がある。三つの団体は救援派という名でくくられているが、別途の団体であるため、分けて理解する必要がある。

間違った罪観

救援派の救い観が正統教会と異なる。正統教会はイエスキリストを信じるがゆえに救いを得ると告白する。しかし、救援派は救われたという事実を「悟った」ゆえに救われると主張する。罪を理解する方法も異なる。救援派は罪を存在論的に理解する。自分に「罪」という存在があり、救われたら罪という存在がなくなるため、もう罪人ではないという。救われた後に罪人であると告白すると救われていない証拠だという。しかし、罪は存在ではなく、関係論的に理解するべきだ。

罪の始まりは神様に対する不従順である。神様と人間の関係の中で罪を理解するべきである。また、聖書は救いを過去、現在、未来の三つの時制で言う。イエスキリストを信じる瞬間、救われるが^{過去}、救いの完成のために生きていて^{現在}、イエスキリストの再臨の時に私たちの救いは完成する^{未来}。使徒パウロは「恐れおののきつつ自分の救いを達成するように努めなさい」^{フィリピの信徒への手紙2:12}という。イエスキリストを受け入れた人はすでに救われたが、まだ完成されたわけではない。すでにとまだの間の緊張状態を無視してはならない。

イ・ヨハン救援派の余命わずかの終末論

イ・ヨハン救援派は終末論において深刻な問題がある。終末の日時を特定してはいないが、だいたいある時点であると主張する。約80歳のイ・ヨハンは自分が生きている間にイエス様が再臨するという説教を何度に渡ってしながら余命わずかの終末論を説破した。ヨハネの黙示録何章何節の事件は今日に起きたある事件だという風に語る。これを極端的な世代主義終末論という。

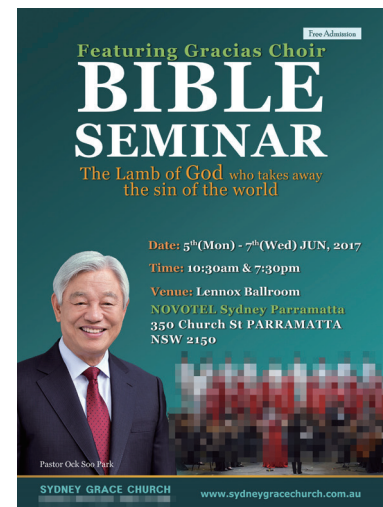
パク・オクス救援派の様々な文化及び布教活動

文化を利用した布教活動のトップはパク・オクス救援派である。IYF International Youth Fellowship、国際青少年連合は多数の大学で活動する。

IYFはワールド文化キャンプ、世界青少年長官フォーラム、世界大学フォーラム、大学生リーダーズカンファレンス、世界文化ダンスフェスティバル、世界文化エキスポ、グッドニュースコ海外ボランティア、英語スピーチ大会など大学生や青少年らが関心を持つような様々なプログラムを開催している。IYFで開催するイベントには世界各国の青少年と青年らが参加し、各国の長・次官級の人々、国会議員、大学総長、有名スポーツスターなどが来て講義をする。

もちろん招待されてくる全員がパク・オクス救援派ではない。困難な状況の青年たちに夢とビジョンを与えてほしいという宗教色を排除した救援派の要請を受けて来る。多くの異端と似非団体が偽装してイベントを開催するが、IYFイベントでは上記で述べた公式名称を使用しているためにイベントの名称を正確に覚えることがパク・オクス救援派予防の近道になる。

ここ最近、パク・オクス救援派が力を入れている布教方法はマインド教育院を通しての講義である。全国の多くの小・中・高校と大学、各官公庁はもちろん、世界各国でマインド及び人性教育が行われている。マイ



パク・オクス・救援派」のオーストラリア広報ポスター



オーストラリア IYF ワールド・キャンプ広報ポスター

ンド教育院の主張によると2013年設立以降、2015年11月まで全世界で約4、880回の講義が行われ、参加者数は3、860、000人に上る。マインド教育は宗教色を排除した自然な布教手段として活用される。マインド教育はパク・オクスから始まり、パク・オクスのマインド講演の核心は「自分自身を信じるのではなく、主を信じること」であると明らかにした。グッドニュース宣教会はマインド講演を掲げて海外まで進出し、公信力を確保している。

パク・オクス救援派はCLF^{Christian Leaders Fellowship}、キリスト教指導者連合と韓国キリスト教連合^{KCA}を作り、布教に活用している。この名称は結構な混乱を起こしている。CLFはクリスチャン法律家の集まりである Christian Lawyer' s Fellowship^{CLF、キリスト法律家会}のイニシャルと同じだ。韓国キリスト教連合^{KCA}は正統教団の連合機構の中の一つである韓国キリスト教連合^{KACC}と名前が一緒にイニシャルだけ異なっている。

共同育児コミュニティを作り、幼い子供を持つ家庭に布教する方法も使用している。韓国ソウル市瑞草区で認知度の高い共同育児コミュニティ「mamkium」はパク・オクス救援派の信徒らが築いた。彼らは2016年、瑞草区の両性平等支援事業と良才総合社会福祉館の住民小グループ支援公募事業に選ばれた。EBSとKBS1ラジオにその活動が紹介され、瑞草区内谷洞の住民参加事業に選定され活動した。韓国の都市であるソウル、大田、江陵に地部を置き、地域の政治家ともコミュニケーションしている。喜びのお知らせ宣教会はソウル市瑞草区のmamkiumを筆頭に水源のmamoni、大田のmamsool、大邱のmamdreamなどで共同育児コミュニティを構成して活動している。彼らは親と子供たちが参加するレクリエーションプログラムを開催するが、マインド教育を平行し、マインド教育院の講師としてパク・オクス救援派の関連機関である国際マインド教育院所属の講師を配置する。大多数がグッドニュース宣教会の関係者である。それ以外にグラシアス合唱団を前面に押し出し、レベルの高い公演を開催したり、「Tomorrow」という雑誌を製作し全国の有名コーヒーショップに配布している。



「パク・オクス・救援派」がオーストラリアで開いたCLFカンファレンス 広報パンフレット

世界平和統一家庭連合

統一教会



世界平和統一家庭連合 以下統一教会 は文鮮明 ぶんせんめい 1920年生まれ、本名 ムンヨンミョン ムンヨンミョン によって創設された。文鮮明は1935年、イエスと出会った神秘体験を通して、人類の救いを完成する使命を与えられたと主張する。1940年代半ばギムベクムンのイスラエルの修道院に入って6ヶ月間彼は、1954年5月1日、世界基督教統一神霊協会を創設し、本格的な活動に入った。

何を信じますか？

韓国の自称再臨主が主張している教義は大同小異である。統一教はイエス・キリストの誤った理解を持っている。統一教はイエス・キリストの神性と肉体的復活を否定する。イエスは祭司ザカリヤとマリアの性的関係を介して生まれたと乙女の誕生も否定する。イエス様が十字架を背負ったのは、本来の使命でも、神様の意志でもなかったと言う。イエス様が十字架で死んで人間を贖う働きに失敗したが、この働きを完成するために文鮮明が聖書に記録された東方の韓国に再臨キリストとして来られたと主張している。

エバが禁断の木の实を取って食べた事件は、サタンと性関係をしたという比喻であり、エバは再びアダムと性的関係を結んで、サタンの血がアダムの子孫に流されたと主張する。墮落し、サタンの束縛の下に置かれた人間を神様の本来の創造目的に戻すことを蕩滅復帰と言う。統一教会で文鮮明は、真の父、彼の妻である韓鶴子（ハンハクチャ）は真の母として、この真の父母は、墮落した人間を新たにするために建てられた存在だと信じている。文鮮明が死亡して韓鶴子は、自分自身を神格化し始めた。韓鶴子は、自分が六千年ぶりに生まれた独り子であり、原罪がないと主張した。

合同結婚式の意味

統一教会の合同結婚式は有名なイベントだ。合同結婚式は統一教会式の救いの儀式に解釈することができる。サタンの血で汚れた人間が真の父母が結び合わせてくれた人と出会う、結婚祝福を受け、血統転換すなわち、きれいな血に切り替えるという意味を持つ。合同結婚式には聖酒式、蕩滅棒行事、三日儀式などの

3大儀式がある。聖酒式は聖餐式と同じ意味でグラスに入った飲み物を飲むと、サタンの血を抜く意識である。蕩滅棒行事は、男性と女性が身体的損傷のない範囲内で、お互いを三回打つ行為をいう。性的に墮落したことを蕩滅するため鞭打ちの意識で、天使をして腰の骨を打ったあとに初めて祝福を与えられた事件を恣意的な解釈した結果である。蕩滅棒行事の後、40日後に3日間性交をして家庭誓いを介して祝福家庭として生まれ変わることになる。

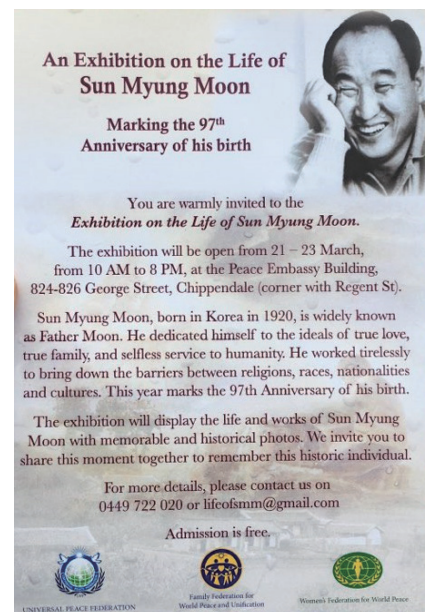
真の家庭か偽りの家庭か

真の父母と主張する文鮮明と韓鶴子の家は、真の家庭らしい姿を見せてくれたのだろうか？ 1998年、文鮮明の嫁だったホンナンスクは文鮮明家庭の実体を盛り込んだIn the shadow of the Moonsを発行した。その後、米国のTV番組にも出演して文鮮明の不道德さと非倫理的な行動を告発した。文鮮明の家族は、権力を置いて覇権争奪戦を繰り広げている。

文鮮明の宗教的な後継者として7男ムンヒョンジンが有力だ。ところが、文さんが死んで韓鶴子が自分を神格化し、その地位を横取りした。韓鶴子の神格化にムンヒョンジンは自分の母親を、サタンの血統とし、韓鶴子はムンヒョンジンを横道者と非難した。

統一教と日本

統一教会は、日本で勢力を拡張しながら活動してきた。日本から入ってくる資金が統一教会を支えるための根幹になったといっても過言ではない。日本人信徒たちは韓国が再臨主、すなわち、文鮮明の国であり、自分たちの祖先が韓国を植民地にしたことに対する謝罪をしなければならないという教理に洗脳されてきた。統一教会は塗装、陶磁器などの物品に霊力があると偽って信徒たちに高価で販売している靈感商法で多くの金銭的被害を発生させた。日本では、キリスト教団とともに弁護士などが組織を組んで統一教会被害者に対する相談や法律的支援を行っている。最近靈感商法による被害者の損害賠償請求が継続的に受け入れられる形と統一教会の日本活動に打撃が予想される。



「統一教」がオーストラリアで布教のため配布したチラシ

キリスト教福音宣教会

JMS



JMSで知られている集団である。教祖鄭明析 チョン・ミョンソク は1945年3月16日、忠南錦山のウォルミョンドンで6男1女の中の3男として生まれた。彼は11歳のときから、啓示の声を聞いたと主張している。兵役後は天国、地獄、霊の世界を行き来していたと言う。金山地域の統一教会に入信して統一教会勝共連合で反共講師として活動した。1975年には使命を受けたと主張し、1978年の終わり故郷を離れ、本格的な活動を開始することになる。1980年、ソウルに立てたエチョン教会が現JMSの母体で知られる。JMSの正式名称は、キリスト教の福音宣教会だ。JMSは鄭明析のイニシャルであるが、キリスト教福音宣教会側はJesus Morning Starと言う。

希代の性犯罪者

鄭明析は希代の性犯罪者に記憶される。鄭明析に捧げられる女信徒のプロフィールと鄭明析をダーリン、主などと呼びながら信徒たちが撮影したヌード動画などが明らかになったとき、多くの人が大きな衝撃を受けた。鄭明析は女信徒への性暴行の疑いで、1999年から捜査機関の内査を受けている間、海外に出て逃避生活をしたが、2007年に中国で逮捕され韓国に送還された。

準強姦、強姦致傷、強制わいせつなどの疑いで、最高裁で懲役10年を宣告され収監生活をした。2018年2月18日、電子足輪を掛けられて満期出所した。鄭明析の猟奇的な性的問題は、国内はもちろん、日本、中国、台湾、香港などの各国のメディアがこれを大々的に取り上げた。



JMSオーストラリア脱退者のインタビューを見る

主な教理

JMSは鄭明析をこの時代のメシアとして信じている。鄭明析と鄭明析が認めた人々は、すでに精神的に携挙したと信じる。鄭明析の誕生日である3月16日に聖者昇天日にして鄭明析に臨んだ聖者が鄭明析にすべてを任せて昇天したと主張する。

鄭明析の収監生活中でも変わらない活動

鄭明析が収監生活を始めた後から、他の異端とカルト団体に比べて相対的にJMSへの対策と警戒活動が活発に行われなかった。新天地、神の教会、救援派などの教勢と被害事例が急増するにつれて、相対的に関心が薄れた。JMSは鄭明析の収監以降にもまだ大学街はもちろん、海外でも継続的に布教活動を広げてきた。

JMSの代表的な布教方法は宗教色を排除した、様々な文化、芸術イベントなどである。イベントの究極的な目的は、やはり布教だ。自分の聖書勉強会や団体に包摂するための関係を結ぶための手段である。モデル、チアダンス、サッカー、音楽サークルなど作ることができるほぼすべての集まりを作って関係を結びに努める。

異端とカルト宗教を 予防する簡単な方法

韓国では数多くの異端とカルト宗教があり、毎年数万名の人が異端とカルト宗教に惑わされている。彼らの海外への進出も活発である。韓国であれ海外であれ布教方法はほぼ類似している。ますます拡張していく異端とカルト宗教の教勢と急増する被害事例に比べ、予防する方法は意外と簡単である。

第一、異端とカルト宗教の公式名称を正しく知るべきである。異端とカルト宗教は正体を隠して活動する同時に、公式名称をそのまま使っている場合も多い。韓国の主な教団が異端あるいはカルト宗教、参加禁止、注意要望などで決意した団体が公式名称を熟知しておけば、異端対策に大きい助けとなる。

第二、様々な偽装と詐称に注意を注ぐべきである。見た目で判断する時代は終わった。異端とカルト宗教は偽装教会、偽装サークルなどを運営している。韓国の主要プロテスタント教団の詐称はもちろん、教団のロゴを盗用して教会の看板を作る。やむを得ず他教会に登録する場合、看板だけを見て入ってはいけない。教会の所属教団を確認し、教会が該当教団に所属されていることを再確認することは、行過ぎたことではない。キャンパスの偽装サークルと偽装行事は、異端とカルト宗教の主な布教方法である。聖書勉強、サッカー、ダンス、楽器サークルなど、すべてのサークルを作って布教に活用する。異端の信徒である在学生在が教室を借りて異端の信徒を講師にし、学生たちが関心を持つ多様なテーマでセミナーを開催する。行事が学校で行われることを理由に安心してはならない。参加する行事が学校側で認知されるのか、主催者が誰なのか、沿革はどうなるのかを必ず確認しなければならない。

第三に、アンケート調査の際に個人情報を残してはならない。アンケート調査は異端とカルト宗教の最も古典的な布教方法である。アンケート調査の目的は、対象者の宗教、電話番号、学校など多様な個人情報を収集することにある。アンケート調査ではなく、身分の調査である。アンケート調査の後、“真面目に答えていただいております。”という挨拶と共に、“アンケート調査の内容についてもっと話したい”というように続けて会えるように誘導する。

第四に、検証されていない教会の外部の聖書勉強会に出席してはならない。あらゆる偽装、詐称、出会いなどの最後は聖書勉強である。“聖書勉強が始まると、サタンの妨害が始まるので家族、教会のスタッフなどには内緒に下さい。”という話で始まる聖書勉強は、殆ど異端とカルト宗教である。新天地は“新天地のような異端に気を付けなければならない”と言いながら、聖書勉強を始める。最初から教祖を救援者と信じる者は誰もいない。異端とカルト宗教の聖書勉強は聖書を通じてイエス・キリストではなく教祖を発見できるようにする過程である。検証されていない聖書勉強に参加しないだけで、異端とカルト宗教に惑わされない。

残念なことに新天地だけで毎年1万人の人が陥っている状況である。検証されていない聖書勉強の集まりを安心して参加した結果である。偶然の出会いであれ計画的な出会いであれ、人間関係を通して教会の外部で聖書勉強をし始めたら、直に止めるべきだ。異端とカルト宗教は人と人が出会えるすべての方法を使う。“異端とカルト宗教はこんな方法も使いますか?”という質問は意味がない。日々進化していく異端とカルト宗教の布教方法に対する警戒心を持つ必要はある。しかし“接近する方法”より“接近した後の終着点”が聖書勉強“という事実がもっと重要である。

洗脳と宗教中毒の観点から見た似而非 (pseudo)宗教メカニズム



似而非^{pseudo}の文字的意味は"表から見ると似ているようだが、根本的には非常に異なること"である。しかし、似而非^{pseudo}によって発生した大きな被害を記憶する人々は、似而非^{pseudo}を単純に一つの文章と定義することを拒否する。終末の日を決め、特定の人物を神格化して人々を感化した似而非^{pseudo}団体によって大きな被害に遭われてきた。

異端とカルト宗教の荒唐無稽な教理は、人々がいったいなぜカルト宗教に陥るのかという疑問を生む。性犯罪者や犯罪者を時代の救済者として信じたり、自分の全財産を捧げる行為などは常識的ではない。しかし、見逃してはならないところがある。異端とカルト宗教に陥る原因は荒唐無稽な教理だけにあるわけではない。

今日の異端とカルト宗教は、人の心理や置かれている状況と環境を上手に利用する。関係に弱い人には関係として、家庭に問題がある人には、家庭の問題を解決できる存在として近づいてくる。異端とカルト宗教に陥った人の中には、最初から彼らの教理を信じた人が何人いるだろうか。教理は二次的な問題である。教理が受け入れられる関係、あるいはそれ以外の心理的な要因が必ず働く。家庭または所属している共同体から愛されなかった人々の場合、カルト宗教の信徒が宗教性を排除し、親切的な存在として近づいてくる時、大きな魅力を感じるようになる。

多くの異端とカルト宗教の脱退者たちと会いながら、発見した面白い事実は、JMS^{チョン・ミョンソク}には陥っているのに、なぜ神の教会に感化されるのか理解できないという反応を見せるし、新天地に陥っているのにJMSに陥る理由が分からないという反応を見せているというところである。それぞれの異端とカルト宗教

団体が持つ固有の特徴があり、惑わされた人はその固有さに反応したという傍証である。関係や家庭問題、権威的な教祖に屈服したか、人が異端とカルト宗教に惑わされるには、教理以外の様々な理由が存在するのである。

問題は、教理のほか、様々な理由に反応して惑わされた信徒たちが、異端とカルト宗教に徐々に中毒になった時に発生する。正統教会にも信仰の厚い信徒がいて、信仰の弱い信徒がいるように、異端とカルト宗教団体の中でも、教理を徹底的に信じる者がいると同時に、半信半疑の信徒もいる。教祖たちは半信半疑の信徒を締めつけるために様々な方法を使う。代表的なのが洗脳、洗脳による中毒である。

希少性モデルの提示、洗脳と中毒につながる

洗脳がどのように中毒につながるのか。この質問に答えるために、まずは宗教中毒に対する理解が必要だ。宗教中毒は1990年代から本格的に学者たちによって研究が開始された中毒の一分野である。一般的に中毒は、麻薬や薬物などの物質の中毒された物質中毒やギャンブル、仕事などの行為に中毒された行為中毒と区分する。行為中毒は、再び読書、釣りなどの行為が目に見えて確認できるタイプの中毒と関係性芸能などの目で確認できない無形の中毒に区分する。宗教中毒は代表的な無形の中毒である。

宗教中毒は“神様ではない神様以外の他の宗教的要素に執着すること”を意味する。信仰生活の動機とその元が神様ではない関係・職分・牧師などの場合だ。異端とカルト宗教は真の神様ではない教祖という歪曲された神を作り、教祖がすべての信仰生活の動力となる。したがって、異端とカルト宗教は100%宗教中毒である。

中毒の程度も違うのである。軽症中毒があるかと思えば重症中毒がある。宗教中毒も同じである。異端とカルト宗教の教祖、幹部たちは信徒たちを重症中毒者とならせるために努力する。重症中毒者にする方法がまさに“洗脳”である。

教主が信徒を洗脳させ中毒に陥るようにする過程は“希少性モデル(あるいは、'ゼロ・サムモデル')”から始まる。希少性モデルはアン・ウィルソンシェフが『中毒社会』で並べた二十種類ほどの中毒の特性の一つだ。希少性モデルとは、物質(あるいはその何か)が希少性を持ち、皆と平等に分けられないという前提から始まる。そのため、希少性は執着を生み、執着は中毒を生むことになる。

カルト宗教は救済を口実に希少性モデルを作動させる。例えば、ヨハネの黙示録に記録された象徴的な数144,000の中に入らなければならないと迫る。信徒たちは144,001等にならないように自分の人生のすべてを捧げ始める。144,000に向かって人生のすべてを捧げた信徒は関心分野のほかにはどのようなものも見ることができないトンネル・ビジョン現象に陥ってしまうようになる。トンネル・ビジョン現象とは、暗いトンネルの中で運転をする時、トンネルの出口だけが明るく見え、周辺は暗く見える視覚現象を意味する。心理学では目の状況に集中しなければいけないため、周辺で起こる現象を認知する能力が顕著に落ちていく現象をいう時に使う用語である。

依存性が生んだ補償独占構造、メカニズムの完成

カルト宗教の信徒が団体から脱退できない最も大きい理由は"恐れ"のためだ。ここにだけ救援があると洗脳された信徒たちは、団体から外れると救いを剥奪されることを恐れる。実際に、教祖たちはこの場所を離れると、呪われると教えるのである。信徒たちは“恐怖”に襲われるようになる。神様の教会を脱退したある信徒は、脱退後、“土曜日に正統教会の礼拝堂で行なわれる結婚式にも入ることを恐れた”と告白した。教会の中に入ると、救いから断絶されるという洗脳教育を受けてきたからである。身体は神様の教会から脱退したが、依然として脱退者の中には恐れが残っていた。

恐れは依存を及ぶ。恐怖は依存性を呼び起こす。信徒は自分自身の“恐怖”を解決できるカルト宗教にははまり込む。恐怖がもたらした依存性は、補償独占構造を生む。補償独占構造とは、文字通り補償を独占するという意味だ。教祖は信徒に必要なすべてのものが、カルト宗教から満たされるようにする。信徒は団体の外を見てはいけな。インターネットを善悪を知る木の実と教え、情報を遮断することは、カルト宗教の旧習である。信徒が好きなもの、信徒に必要なもの、その何かを団体の中から満たしてあげなければならない。そこで家族を背く理由が説明できる。カルト宗教に陥った人が家族を背いてでも団体の仲間に残る理由は何かと質問する人への答えは"家族よりもっと良い共同体があるという事実"に洗脳され、中毒になったため”である。

日本の医学博士である依存症心理学者の磯村毅(いそむら・たけし)氏は著書である『二重洗脳—依存症の謎を解く(2009)』よりカルト宗教からみられる補償の独占と依存症について説明している。

“その人を支配するためには、すべての補償が教祖の手で与えられるべきだ。...カルト教団以外の人間関係をすべて断ち切るようにしたのが彼らの仕事だ。"教祖以外は信じられない"という状況を作らなければならない。そのため、家族からも切り離し、他の人間関係も断絶させ、独占的な状況を構築する。...カルト教団の補償独占構造は依存症が与える効果と非常に似ている。なぜなら、タバコ、酒、薬物、セックス、ギャンブル、ゲームのような依存症行動は、ドーパミンを強制的に分泌させ、神経の感受性を低下させることで日常の幸せを感じにくくする作用をするからだ。どのような行動をしても100%楽しむことができない。食事も休みも。…離婚を脅迫されても、なかなか依存から離れない。彼らにとって、妻と子どもはすでに幸せを感じる対象ではないのだ。依存対象以外には頼るところもなく、幸せを感じる事ができない状況になったからだ。”

『二重洗脳—依存症の謎を解く(2009)』 - 著：磯村毅(いそむら・たけし)より (*韓国語翻訳版 再引用)

信徒にとってカルト宗教とは、家族やその他、何ものからでも満たされたことのない自分自身から感じる渇きを解消してくれる存在、つまり、補償を与える存在である。まとめると、教理に洗脳され始めた信徒は救いという希少性モデルによりトンネル・ビジョンに陥って“恐れ”を抱えることになる。カルト宗教はその“恐れ”を補償独占構造で解決し、信徒を徹底的に自分の者になら



韓国の 主要異端 およびカルト宗教

Right Media

www.hami.kr

